

## 地歴 日本史 出題の意図

### 問題Ⅰ

古代から中世における稲の収取に関する諸問題について理解できているかどうかを問うものである。

- 問1 弥生時代の典型的な水田は小区画であったということを理解できているかどうかを問うものである。
- 問2 令の規定を読解して、令制における租の賦課は、田の面積を単位としていたということを理解できているかどうかを問うものである。
- 問3 史料および写真図版を読解して、収取された稲が郡に置かれた正倉に蓄積されていたということを理解できているかどうかを問うものである。
- 問4 表の数値および史料を読解して、墾田永年私財法により輸租田である墾田を国家が掌握したことにより、9世紀においても租の蓄積が維持されていたということを理解できるかどうかを問うものである。
- 問5 史料を読解して、8世紀における公出挙割り当ては、人を単位としていたということを理解できているかどうかを問うものである。
- 問6 史料を読解して、9世紀末には公出挙割り当て基準が田の面積を単位とするようになっていたこと、10世紀において新たな課税単位として名が成立したこと、および新たな税目として官物・臨時雑役が成立したことを理解できているかどうかを問うものである。

### 問題Ⅱ

日本中世を中心とした院政、室町幕府、戦国大名、豊臣秀吉の政治・法制度に関する基礎的理解を問うものである。

- 問1 院政期の知行国制に関する基礎的知識を問うものである。
- 問2 (1) 建武式目に関する基礎的理解を問うものである。  
(2) 戦国大名の分国法に関する基礎的理解を問うものである。
- 問3 (1) 豊臣秀吉のキリシタン禁令に関する史料読解能力を問うものである。  
(2) 同じく、史料の性格に関する考察能力を問うものである。

### 問題Ⅲ

江戸時代の政治・外交史にかかわる基礎的な知識が、単なる知識の詰め込みではなく歴史の文脈の中で生きた知識として定着しているかどうかを試す。その際に、出題文をきちんと読解することをも併せ求める。出題文それ自体は教科書に記載がほぼ無いような初見の事実が並んでいる。そうした初見の史実を、既に学んできた史実と論理的につなぎ合わせて考察する能力を試す。

#### 問 1 ・ 問 6

江戸時代の政治史にかかわる重要事項をきちんと把握できているかどうかを試す。

#### 問 2 ・ 問 3 ・ 問 5

出題文を丁寧に読み、江戸時代の対外関係史にかかわる基本的理解とつなげて論を展開する力を試す。

### 問題Ⅳ

#### 問 A

近現代日本の対外的な問題について理解できているか問うものである。

問 1 日本の領土・勢力拡大について基本的事項が理解できているか問うものである。

問 2 日本の満州進出と国際関係について理解できているか問うものである。

問 3 満州国の実態について理解できているか問うものである。

#### 問 B

図や表を読み解きながら戦中戦後の日本史について基礎的な理解ができているかを問うた。

問 4 図と引用資料および問いかけ文に出てくる年代から、きちんと歴史事象が確定できるかどうかを問うた。

問 5 ODA についての基本的理解と、戦後日本とアジア諸国との関わりについての理解度を問うた。

問 6 1970 年代以後の日本経済の動向について、その歴史的变化をきちんと理解できているかどうかを問うた。